

福島県飯舘村 f r a g e 担当者会議& f r a g e 担当者研修

現地で感じたこと
活動につなげる



2016年8月に完成した交流センターの前で

ドコモ本部は、3月26～27日に第4回分会 f r a g e 担当者会議と第2回分会 f r a g e 担当者研修を福島県飯舘村で開き、全国の分会 f r a g e 担当者22人が参加した。

分会 f r a g e 担当者研修に先立ち、情報労連のボランティア活動の一つ、プルタブ回収の成果による車椅子を飯舘村の社会福祉協議会に贈呈した。飯舘村社会福祉協議会・菅野茂会長、小林浩二事務局長も参加した車椅子の贈呈式では、ドコモ本部・高橋委員長から「全国の組合員の『思い』が込められています。ぜひ役に立ててください」との言葉とともに車椅子が贈られた。

菅野会長からは、「飯舘村は、3月31日に避難指示が解除されます。福祉協議会の事務所も福島市飯野町から3月6日に移転を完了し、飯舘村での業務を再開しています。贈呈いただいた車椅子は有効に活用させていただきます。また、全国の皆さんの取り組みは本当に助かります」と車椅子の贈呈への感謝と f r a g e 活動に対し期待する言葉をいただいた。

研修では、f r a g e 活動でこれから支援をする村のようすを視察。避難指示解除後に住民が戻るには、荒れた敷地を草刈等で整備することが必要だと確かめた。その後、飯舘村についての語り部活動を行なっている渡辺富士男さんによる講演を聞き、発災からこれまでの村民の人々

ドコモ本部

ドコモ本部
〒107-0052 東京都港区赤坂2-4-5 国際赤坂ビル19F
TEL 03-3582-9381 FAX 03-5114-5444



車椅子の贈呈式のもよう



全国から22人の f r a g e 担当者が参加

の苦悩を全員で共有した。

実際に飯舘村を訪れ、現地を見て、声を聞いた上で、これからの支援を分会 f r a g e 担当者で考え、今後の取り組みの具体化を会議で決定した。

ドコモ本部は、飯舘村での研修と会議をふまえ、5月以降、福島県飯舘村での支援活動を、各分会 f r a g e 担当と連携して実践していく。



7面には、飯舘村の語り部活動を行なう渡辺富士男さんによる講演のもようを紹介しています。

楽しみながら学び 理解深める
f r a g e 企画 京都水族館で環境研修

【東海総分会】東海総分会のレクリエーション (f r a g e) 企画として「京都水族館の見学を通じ環境への取り組み・知識を深め、自身を取り巻く環境への理解を深めることで、企業・労働組合が環境問題に取り組む重要性を学ぼう！」と題した環境研修を実施しました。

参加者の皆さんは「なぜ水族館が環境に関係するのか」と大きなクエスチョンマークがあるようでしたので、まずは、勉強会から始めて理解を深めてもらうことにしました。

実は、京都水族館は近くに海などが



東海総分会 小林優介さん



ない場所にあるため、大量の海水をトラック輸送する必要があります。そこで、輸送するトラックの排気ガス問題などさまざまな環境に配慮した取り組みが必要であったことなどを説明すると、皆さん一様に「なるほど」と納得。京都水族館の抱えていた環境問題を学んでから水族館の見学を行ないました。

事前学習のおかげで、参加した皆さんからは「環境を意識しながら水族館を見ることがなかったのが新鮮だった」「単に楽しかったで終わることがなくよかった」など、大変好評をいただいた企画となりました。

企画した f r a g e 担当者も次回の企画に向け、熱心に取り組んでいます。(小林優介通信員)



見学の前に事前学習を行ないました

My Photo Album

Vol.262

育休が貴重な財産に



第一子の誕生にあたり、出生日から約1ヵ月間育休を取得。自宅で妻 (+愛犬) と共に育児に専念しました。育休中は子供と触れ合うことと妻の療養の両立を第一に考えましたが、子供の泣ききっかけが分からないなどいろいろと苦労しました。

しかし、今振り返ると、この育休中の間で親になるという自覚を養うことができ、私たちの貴重な財産となりました。産休・育休を快く受け入れてくれた妻と私の職場の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

CS中央分会 渡邊 貴史さん

赤坂点描
この春、わが家では娘が幼稚園に入る。送り迎えなどが始まり、家族の生活リズムも大きく変わってくるはずだ。▼
▼ 新年度を迎え、私と同じように生活が大きく変化する人も多いだろうが、こうした変化は、ワーク・ライフ・バランスの観点からも仕事をみつめ直す良い機会となる▼折しもドコモグループは働き方に対する意識改革を図り、業務プロセスの大胆な改善と過剰な業務を削減、時間外労働等の縮減に取り組む「働き方改革」を推進している▼充実した新生活を送るためにも、仕事と生活の見直しに積極的に取り組んでいきたい。(だーす)